

# 熊本日日新聞記事

## 1月19日(木)

# 泣く子の口に粘着テープ

## たたくなども 元職員3人が証言

### 熊本乳児院

熊本市中心部の熊本乳児院(定員30人)で2016～21年度、複数の職員が入所している子どもを日常的にたたいたり、突き倒したりするなど虐待が疑われる行為が繰り返されていたと、元職員3人が18日までに熊本日日新聞に証言した。取材に対し、同乳児院の傘正治副院長は、甲斐國英院長の不在を理由に「ノーコメント」としている。

元職員によると、虐待していたのは離職者を含め10人前後。日常的に絵本やバインダーで頭をたたいたり、突き倒したりしていた

という。このほか、泣いている子どもの口に粘着テープを貼る▽手首をつかんで体を持ち上げて放り投げる▽嫌がる子どもに食べ物

無理やり食べさせるなどの行為を実際に見たと証言した。

同乳児院では、元職員に



「複数の職員が子どもを日常的にたたいたり、突き倒したりしていた」とイラストを交えて証言する元職員ら

# 「虐待 日常的にあった」

「虐待は日常的にあった。虐待をする職員を見ると、1、2歳の子どもがおびえたり、硬直したりしてかわいそだった」。熊本乳児院(熊本市中心部)の元職員3人は証言の中で、そう振り返った。うち2人は幼児に食事の介助をしながら、「虐待ではないか」と胸を痛める場面を度々目にしたという。食が細かったり、2歳の「イヤイヤ期」で食事を嫌がる子どもに対し、食べ物無理やり詰め込み、子どもが吐き出すことがあった。職員が「食べんよか」と手首をつかみ、高さ約50センチの柵の向こうに放り投げることも。「痛い」と泣いていた子どももいた

## 食べ物 無理やり詰め込む

17年ごろには、泣いていた子どもの口に粘着テープを貼った職員もいた。証言した元職員は「隣の部屋で泣いていた子どもが急に静かになったので、慌てて様子を見に行ったら、口にテープが貼られていた。職員に理由を尋ねると、「うるしゃーもん」と一言。数人の管理職と防犯カメラで確認できたが、その後の対応は不明という。職員の関与は不明だが、21年6月に子ども1人、同年8月の同じ日に2人が脱臼し、医療機関を受診した。8月の受診の際は、「虐待と通報されるといけないから」と管理者から別々の病院に連れ

て行くように指示を受けたという。「管理職に虐待ではないかと指摘しても、何も変わらなかった。いま動いて、変えないと繰り返されてしまう」と口をそろえた3人。うち1人は、状況が改善されないことが辞職の理由だと打ち明け、「子どもたちを守ってあげられなかった後悔がずっとある」と涙を浮かべた。別の元職員は「私たちが子どもを助けると、(虐待)している職員から怒られるような状況だった。子どもが安心できる場所をつくるのが職員の役目なのに、脅かす存在になっていくのか」と疑問を投げかけた。

### 熊本乳児院元職員による証言

- 口に粘着テープを貼る
- 食べ物を無理やり食べさせる
- 手首をつかんで体を持ち上げて放り投げる
- 排せつ後のおむつを顔につける
- 絵本やバインダーで頭をたたく
- 入浴中に顔めがけてお湯をかける
- 怒鳴りつける
- 無視する
- 突き倒す

### Q&A

乳児院 親の病気や虐待などで保護者と一緒に暮らせない新生児から2歳ごろまでの乳幼児を養育する。2019年度末時点で全国に144施設。県内には3施設がある。保育士や看護師、家庭支援専門相談員などが24時間体制で生活を共にする。熊本市西区の慈恵病院が運営する「このとりのゆりかご(赤ちゃんホスト)」に預けられた乳児も一時的に保護される。

類の確認までしかできない」と話している。

同乳児院は社会福祉法人の熊本社会福祉協会が運営し、国と市が2分の1ずつ措置費を拠出。市から里親養育の包括支援業務など複数事業を受託している。